

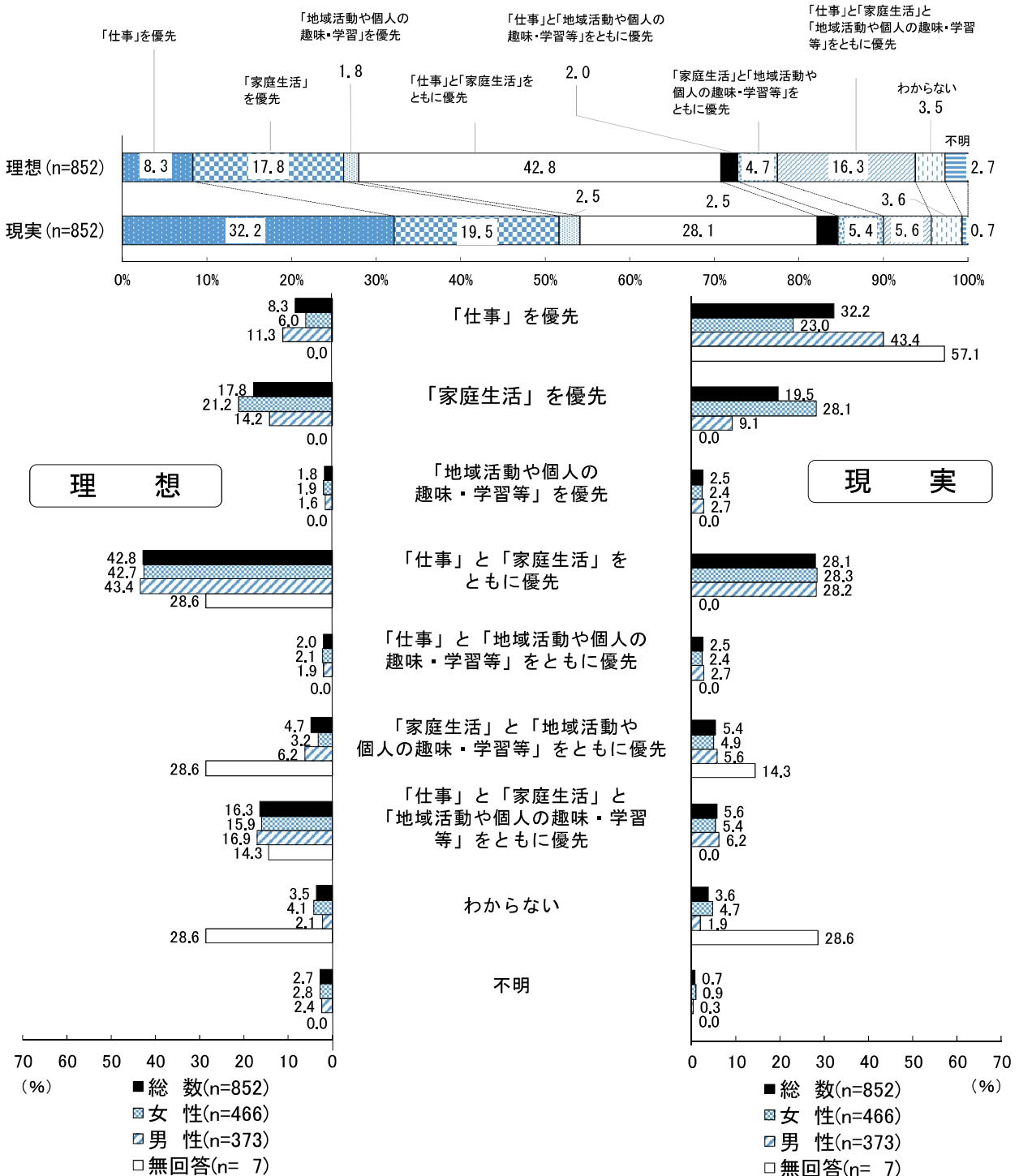
4 仕事と生活の調和

問10 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についてお聞きします。現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況でお答えください。

- (1) あなたの理想（希望）に最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。
- (2) あなたの現実（現状）に最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

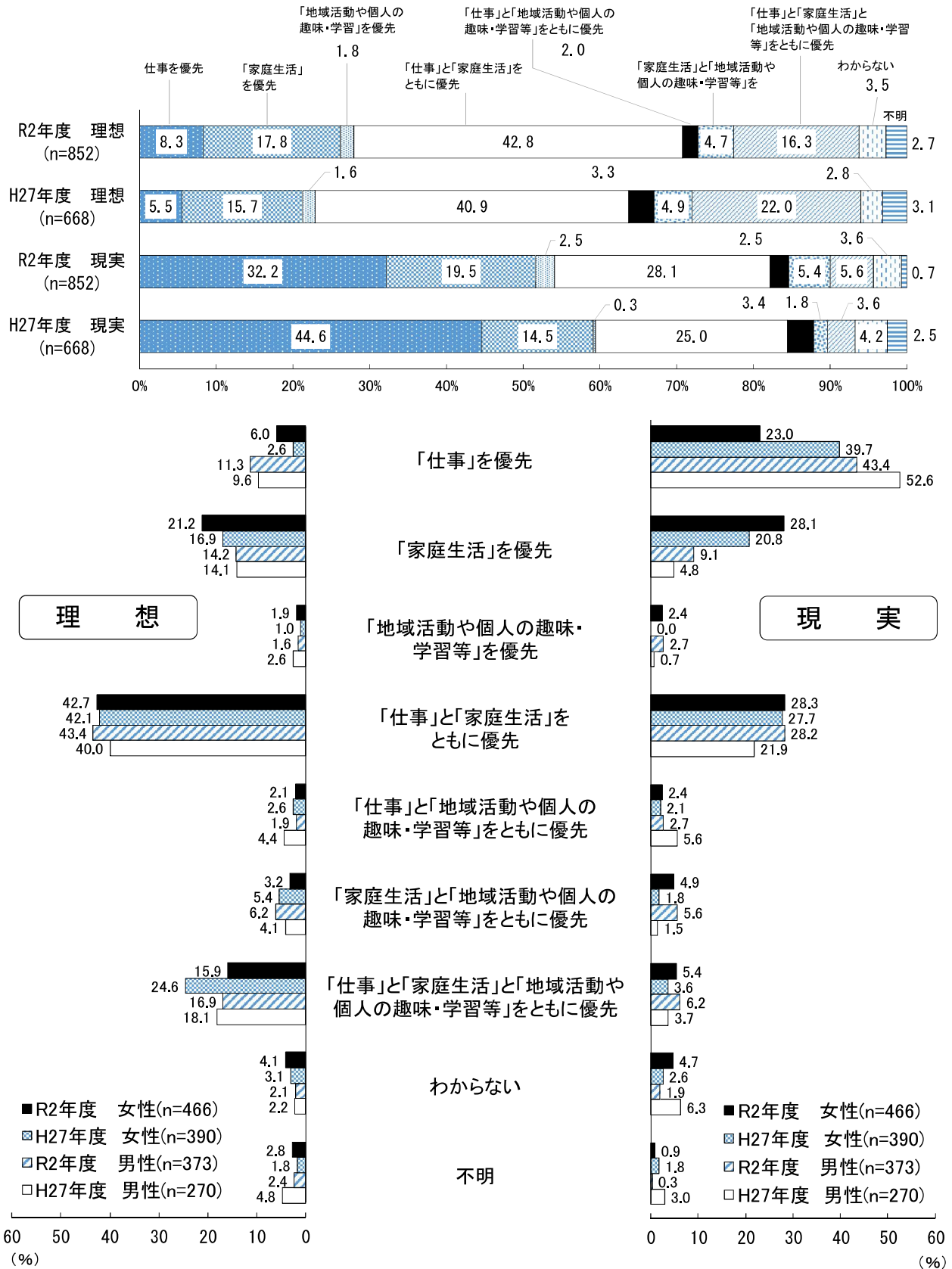
理想では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が42.8%で最も多く、次いで「「家庭生活」を優先」が17.8%となっている。一方、現実では、「「仕事」を優先」が32.2%で最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が28.1%となっており、理想と現実には差がみられる。

図10-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度(理想と現実)



前回調査と比較すると、現実では「家庭生活」を優先が5ポイント増加し、「仕事」を優先が12.4ポイント低下している。性別にみると、男女共に、現実では「家庭生活」を優先が増加しており、「仕事」を優先が低下している。

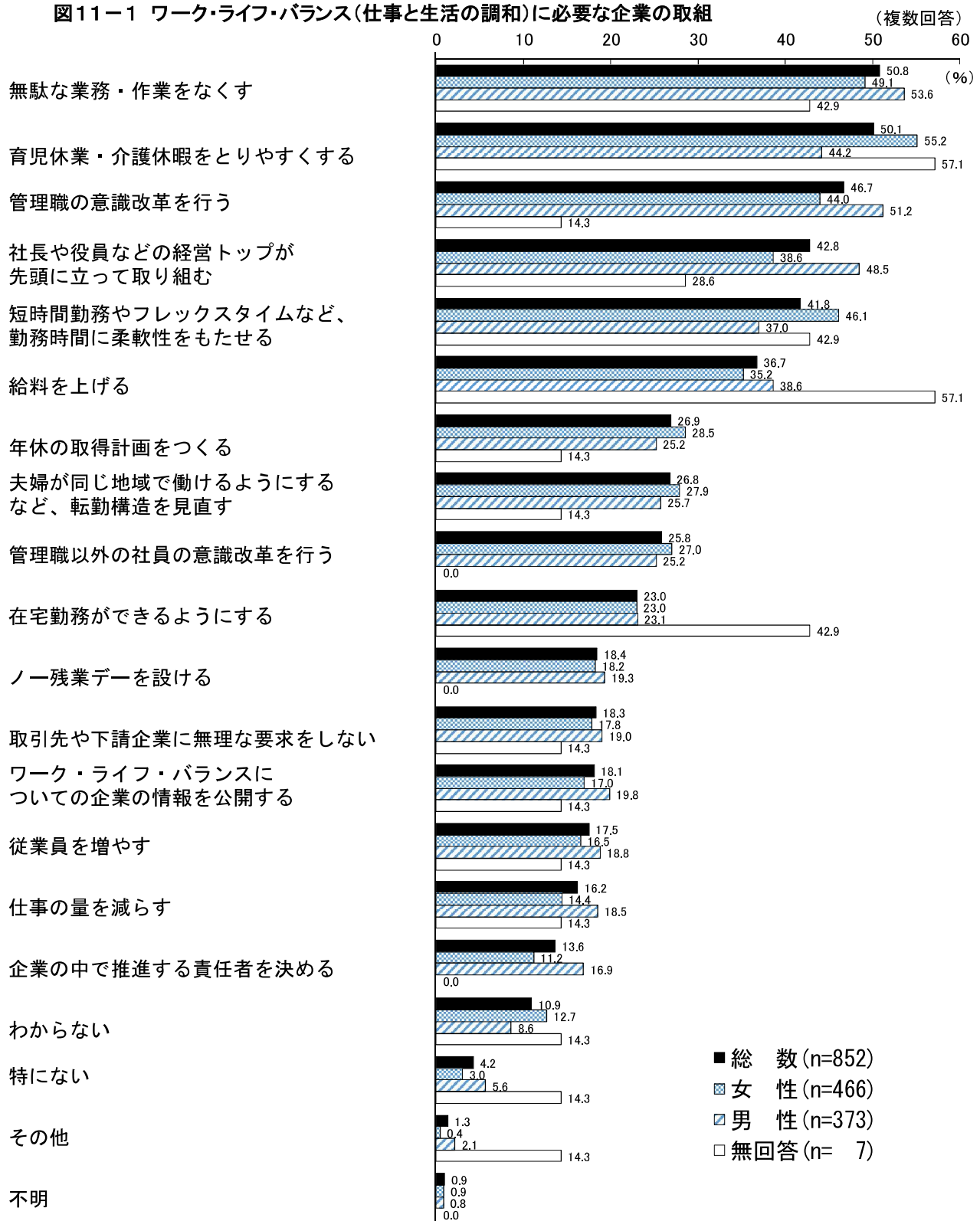
図10-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度(理想と現実)(前回比較)



問11 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現された社会に近づくためには、企業による取組として、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものを1～17の中からいくつでも選んで○をつけてください。特にない場合は18に○をつけてください。わからない場合は19に○をつけてください。

「無駄な業務・作業をなくす」が50.8%で最も多く、次いで「育児休業・介護休暇をとりやすくする」が50.1%、「管理職の意識改革を行う」が46.7%となっている。性別にみると、女性は「育児休業・介護休暇をとりやすくする」が最も多く、次いで「無駄な業務・作業をなくす」が多くなっている。男性は「無駄な業務・作業をなくす」が最も多く、次いで「管理職の意識改革を行う」が多くなっている。

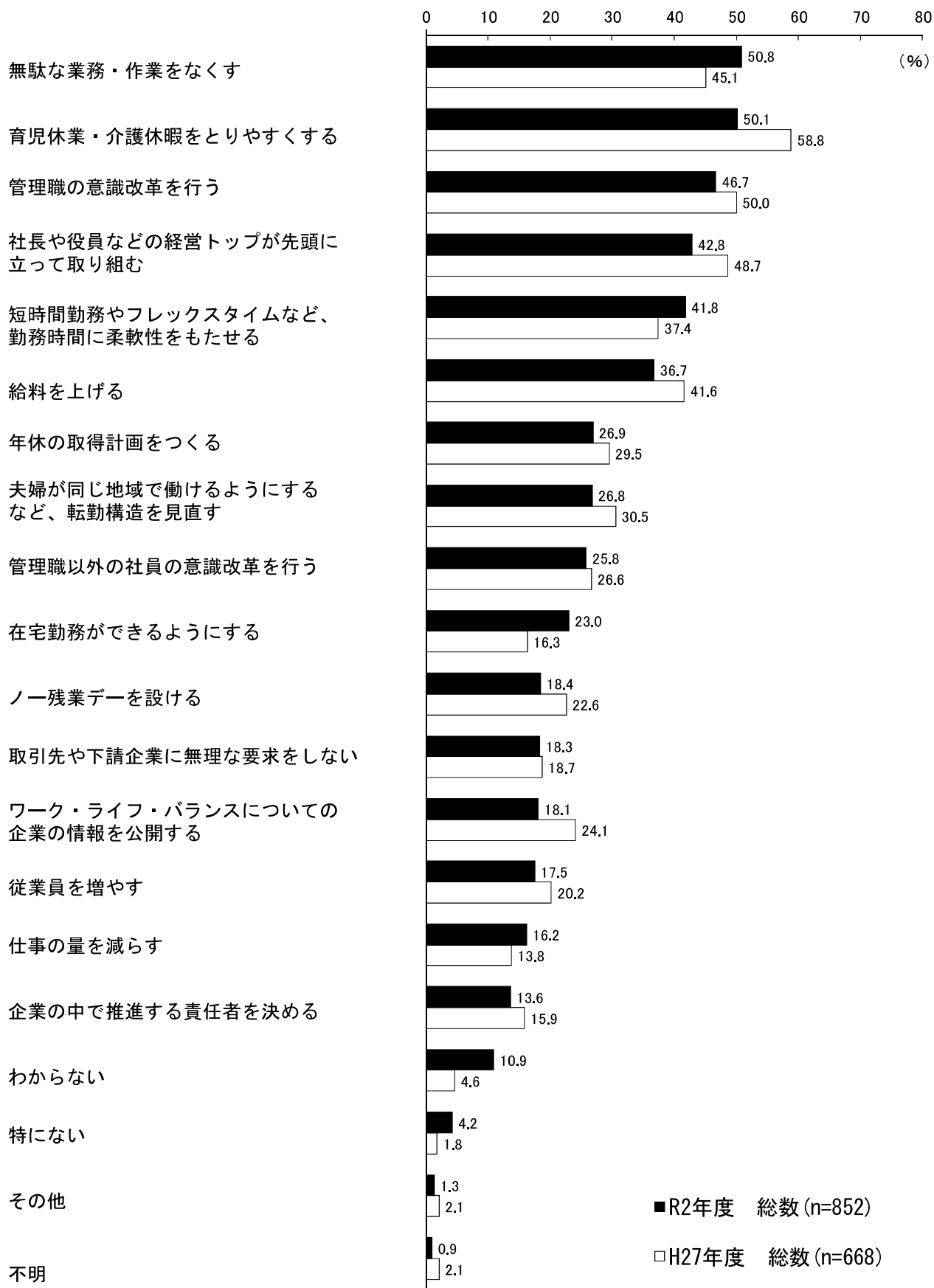
図11-1 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に必要な企業の取組



前回調査と比較すると、前回4番目に多かった「無駄な業務・作業をなくす」が、今回最も多くなっている。

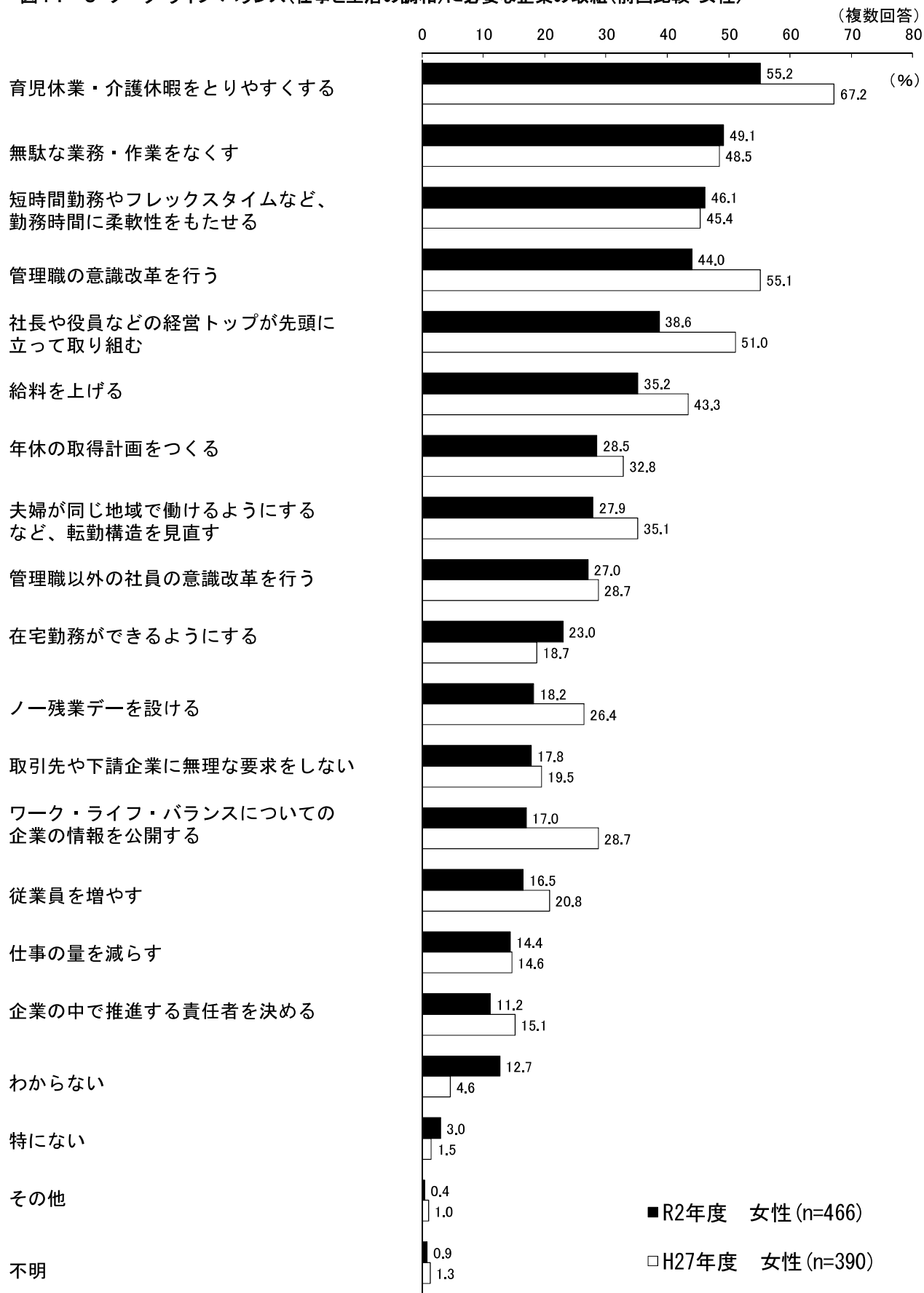
図11-2 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に必要な企業の取組(前回比較)

(複数回答)



前回調査と比較すると、前回4番目に高かった「無駄な業務・作業をなくす」が、今回2番目に多くなっており、前回5番目に多かった「短時間勤務やフレックスタイムなど、勤務時間に柔軟性を持たせる」が、今回3番目に多くなっている。

図11-3 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に必要な企業の取組(前回比較・女性)



前回調査と比較すると、前回4番目に多かった「無駄な業務・作業をなくす」が、今回最も多くなっており、前回3番目に多かった「管理職の意識改革を行う」が、今回2番目に多くなっている。

図11-4 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に必要な企業の取組(前回比較・男性)

(複数回答)

